

新ミュージアム散歩

アジア文明博物館

Asian Civilisations Museum

先祖と儀式ギャラリー

『儀式に息づく人々の祈り』

東南アジアは、人種、言語、文化、信仰などにおいて、とても多様性のある地域です。それは、古くから地理的に東西交易の通り道として、様々な影響を受けてきた為です。主に、東は中国、インド、西はアラブ諸国やヨーロッパから新しい思想、言葉、技術などが伝わり社会に浸透していきました。外国への寛容さは、東南アジアの大きな文化的特徴だと言われています。このギャラリーでは、そんな東南アジアの様々な民族の伝統や文化をご紹介します。ギャラリーのタイトルにあるように、世界中の人々は、昔から先祖を敬い、豊穡や多産などを願い儀式を行ってきました。儀式の形は様々ですが、故人に想いを馳せ、また幸せを願う人々の素朴で純粋な心は、今も昔も変わらないのです。その想いを展示品から感じて頂ければ幸いです。いくつかご紹介致します。



写真提供 / Courtesy of the Asian Civilisations Museum

死者への贈り物

こちらは(写真①)、今から2000年程前のタイの水差しです。恐らく、重要な儀式か埋葬に使われたと思われます。東南アジアでは、死者を土器や青銅器と共に埋葬する習慣がありました。この水差しが使われた頃、東南アジアには、既に中国南方から稲作が伝わっており、人々は定住をし、動物を家畜として飼うようになっていました。今までの、狩猟・採集生活から、定住して農業をする生活になった事は、社会や文化の形成に大きな影響を与えました。この水差しは、水牛の形をしています。水牛は田んぼを耕す為に大切な動物で、富の証でもありました。故人が、あの世でも何不自由なく過ごして欲しいという家族の願いが込められているのでしょうか。



写真①「水牛の形をした水差し」

Collection of the Asian Civilisations Museum

功德を積むこと

漆と銀は、東南アジアの至る所で使われ、富と社会的地位を示すものでした。漆器や銀製品は、仏教徒がより良い来世を願い、功德を積む為に寄進する品の材料としても使われました。この豪華な托鉢の鉢(写真②)は、カンボジアで見つかったタイの品です。真珠母貝の美しい螺鈿細工が施されており、恐らく貴族出身の僧侶の物だと考えられています。鉢の表面には、十二支のような模様がありますが、これは中国文化の影響を受けたデザインになっています。こういった展示品からも、東西文化の影響があった事が伺えます。この他にも、功德を積む為に寄進された、ミャンマーのSazigyo(サジギョ)と呼ばれる仏教写本を綴じる飾り紐なども展示されています。出家が禁じられている女性達が、ひと編みひと編み願いを込めて編んだ飾り紐です。こちらも是非ギャラリーでご覧ください。



写真②「僧侶の托鉢用の鉢」

Collection of the Asian Civilisations Museum. Anonymous gift

首狩り

首狩り、と聞くと野蛮で恐ろしい行為と思われる方も多いのではないのでしょうか。こちらは(写真③)、ボルネオ島で首狩りの為に使われていたナタです。立派なビーズの腰帯の装飾から、地位の高い人の持ち物だと思われます。首狩りはボルネオ島で公明正大に行われていた慣習でした。19世紀にイギリスとオランダがこの島を植民地にした時に禁止され、現在インドネシアでは、首狩りを法律で禁止しています。なぜ首を狩るのでしょうか。諸説ありますが、人の頭部には幸せをもたらす霊的なパワーがあると信じられていた為です。他部族との戦いに勝利し、その力を自分のものとする為、豊作や豊猟を叶える為、病にかかった時は悪霊を追い払う為と理由は様々です。ギャラリーには、ボルネオ島のダヤック族が首狩りに使った盾も展示されています。盾のデザイン一つ一つにも意味があります。是非、博物館でガイドを聞きながら実物をご覧ください。



写真③「ナタと鞘」

Collection of the Asian Civilisations Museum

先祖崇拜

これといった宗教を持たない人が多い日本人でも、先祖を敬い夏のお盆にお墓参りや、先祖が帰って来る為の迎え火を焚いた経験のある方も多いのではないのでしょうか。こちらは(写真④)、インドネシアのニアス島に住むニアス族のADU ZATUA(アドウ ザトゥア)と呼ばれる先祖像です。メインルームの壁に飾られた先祖像は、家族を見守るお守りのような役割を持っていました。死に逝く人の最後の一息を竹筒に取り、それを像に移す儀式を行う事によって、像に故人の魂が宿ると信じられていました。先祖像は霊界と人間界を繋ぐ大切なものだったのです。かつて、このような先祖像は、ニアス族のどの家庭にもあったそうですが、交易と共に伝播されたキリスト教普及により、先祖像は没収され壊されてしまいました。今では旅行者のお土産品としてのみ作られており、ニアス島の大半の人々はキリスト教を信仰しています。東西交易は、信仰にも大きな影響を及ぼしたのです。



写真④「先祖像」

Collection of the Asian Civilisations Museum

葬送

こちらは(写真⑤)、インドネシアのスラウェシ島に住む、トラジャ族の廟の入口の扉です。馬に乗った人型の取っ手は、墓を守る先祖の守護霊を表しています。先祖が墓の中で平穏に過ごしていれば、彼らが子孫に恵みをもたらすとされています。トラジャと聞くと珈琲通の方はトラジャ珈琲を連想するかもしれませんが、トラジャ族は珈琲だけでなく、伝統家屋や葬送儀礼で有名です。彼らが死を迎えると、亡骸には香油が塗られ、布で巻かれて家の中に安置され、ゆっくりと乾い

ていきます。この期間を「殯(もがり)」と言い、本葬する迄のかなり長い期間になります。別れを惜しみ、死者の靈魂を恐れ、かつ慰め遺体の物理的変化を確認する事により「死」を認識する習わしで、古代日本にも存在したそうです。現在の通夜は殯の風習の名残と言う説もあり、殯は昭和天皇の大喪儀でも行われました。4年前の「象徴としてのお務めについての天皇陛下のおことば」で、殯について言及された事が記憶にある方もいらっしゃるでしょう。



写真⑤「扉」

Collection of the Asian Civilisations Museum

今回ご紹介した先祖と儀式のギャラリーには、この他にも東南アジアの山地民族、テキスタイルなど、ここではご紹介しきれないほど沢山の展示品があります。一見無関係のように見えて、実は私達と繋がっているという新鮮な発見もあるかもしれません。皆さまお誘い合わせの上、是非ご来館下さい。心よりお待ちしております。

<ミュージアム日本語ガイドグループ 飯田直美>

私達ミュージアム日本語ガイドグループは、Friends of the Museums に所属し、シンガポール国立博物館(NMS)、アジア文明博物館(ACM)、シンガポール美術館(SAM)、プラナカン博物館(TPM)にて、日本語によるボランティアガイドを行っております。
*シンガポール美術館(SAM)、プラナカン博物館(TPM)は現在休館中

■シンガポール国立博物館 ■ National Museum of Singapore

- 常設展「ヒストリーギャラリー」
月曜～金曜10:30より、第1土曜 10:30より
- シンガポール国立博物館アートツアー：チームラボの作品
「Story of the Forest」も必見
月曜、火曜、木曜(週3回)13:00より

■アジア文明博物館 ■ Asian Civilisations Museum

- 常設展ハイライトツアー
月曜～金曜10:30より、第2土曜13:30より
- ギャラリー別ガイド
先祖と儀式ギャラリー：第1・3火曜13:00より 約45分間
イスラミックアートギャラリー：第2・4火曜13:00より 約45分間

日本語ガイドは現在休止中です。
ガイドスケジュール及び新規入会につきましては、公式ブログ <https://jdgguide.exblog.jp/> 及びFacebookページ「シンガポール日本語ミュージアムガイド」でご案内いたしますので、ご確認ください。